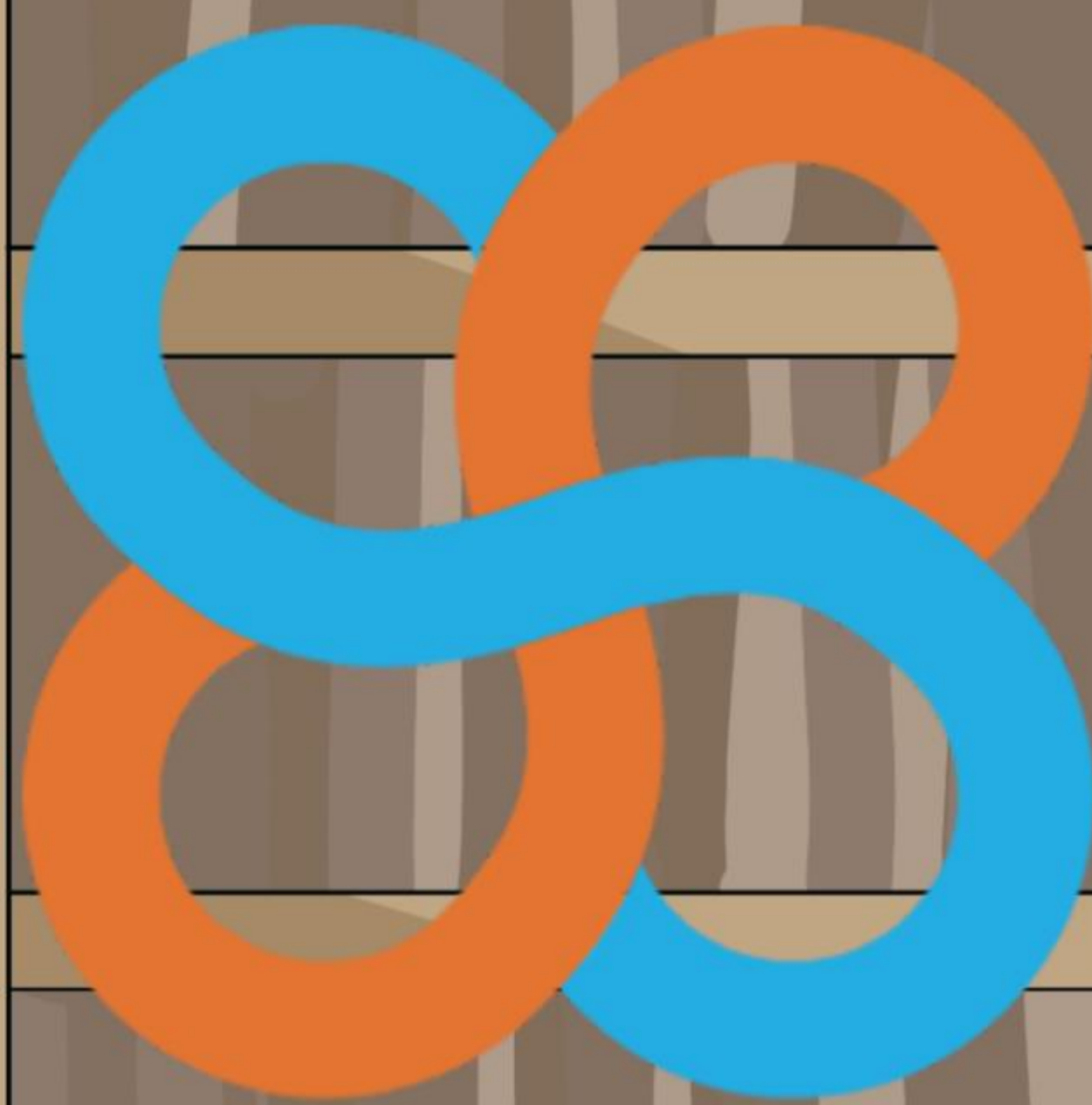


図書館だより



長崎県立大学附属図書館



もくじ

浅田 和伸 学長 「ウサギの肉離れ」

教員寄稿

お勧めのマーケティング関連の書籍

「嫉妬」から政治、社会を考える

心は身体から派生する

非日常の世界に触れる

経営学部 経営学科 大田 謙一郎

地域創造学部 公共政策学科 石田 聖

情報システム学部 情報セキュリティ学科 寺田 剛陽

看護栄養学部 栄養健康学科 世羅 至子

佐世保校 × シーボルト校 インフォメーション

2024.11

創刊号

ウサギの肉離れ

学長 浅田和伸



◇本には宝が眠っている

今回初めて、佐世保校とシーボルト校とで統一した「図書館だより」ができました。去年着任したときから実現を願っていました。両校図書館長の西岡先生（佐世保校）、大曲先生（シーボルト校）、ありがとうございました。

これまでも佐世保校の「図書館だより」に2回書いています（2023年5月・No39/2024年4月・No41）。そこでは、「研究」に関する面白い本の紹介や、20年前から続けている簡単な読書記録のつけ方などにも触れています。シーボルト校の皆さんにも見ていただくと嬉しいです。

「ライオンに追われたウサギが逃げ出す時に、肉離れを起こしますか？ 要は練習が足りないのです。」……痺れませんか？ 元サッカー日本代表監督、イビチャ・オシムさんの言葉です（木村元彦著『オシムの言葉』集英社、2005年）。

校長時代、生徒たちに伝えたい言葉を校長室の前の掲示板などに貼っていました。これもその一つ。私が大切にしている言葉の大半は、本から見つけたものです。

ウォルト・ディズニーが言っています。「宝島の海賊たちが盗んだ財宝よりも、本には多くの宝が眠っている。」だから、学生の皆さんにも、ぜひ本に親しんで欲しいです。

◇読む理由は「楽しいから」

文化庁が2023年3月に実施した「国語に関する世論調査」では、「1か月に読む本の冊数」（電子書籍を含む。漫画、雑誌は除く。）の質問に「1冊も読まない」と答えた人が62.6%もいたそうです。日本、大丈夫か？

皆さんはどうですか。「1冊も読まないなんてあり得ない」と力強く言って欲しいですけどね。

ただ、人に何かを薦めるのは難しい。読む人が読まない人に「読んだ方がいいよ」と言っても、なかなか届きにくいですよ。私もアマノジャクなので、よく分かります。

ときには仕事や調べものなどで読まなきゃならないこともありますし、文章を正しく読み取る力や正確な文章を書く力を身につけるためにも、読書は大切だと思います。

でも、私が本を好きな一番の理由は、そういう実利ではなく、「普段の自分と違う経験ができて、楽しいから」。その楽しさは、学生の皆さんにも知っていただきたいです。あまり読んでいない人たちの中にも、そういうものを必要としている人、そういうもので救われる人がいるんじゃないのかな。

ある学生から、自分は本を読むのが遅い、どうすれば速く読めるようになるか、と尋ねられたことがあります。私の答えは二つ。まず、他のことと同じで、慣れれば自然に速くなるということ。私も読み慣れた分野の本ほど速く読めます。

二つ目は、だけど、無理に速く読もうとしなくていいと思うよ、ということ。文章を読むのは書いた人との対話です。味わわなきゃ。例えば、前に佐世保校版で紹介した本の続編である前野ウルド浩太郎さんの『バッタを倒すぜアフリカで』（光文社新書、2024年）は約600ページ、教育関係で話題になった松岡亮二さんの『教育格差』（ちくま新書、2019年）は約400ページもあります。それ自体がメッセージ。サラサラと読まれたら、著者はがっかりすると思いますよ。

◇最近読んだ本から

最後に、最近読んだ中から、読みやすく面白かったものをいくつか紹介します。

◆『スーパーチームをつくる！最短・最速で目標を達成する組織マネジメント』（トム・ホーバス著、日経BP、2024年）。佐世保校で借りました。著者はバスケットボール男子日本代表のヘッドコーチですね。

◆『ようこそ緩和ケアの森 死亡直前期の患者を診る』（大屋清文ほか著、南江堂、2023年）。シーボルト校で借りました。

◆『ポンコツ一家』（にしおかすみこ著、講談社、2023年）。これは市の図書館で。

◆『「困った生徒」の物語ーリアルな教育現場をのぞくー』（磯村元信著、新評論、2024年）。新聞の書評を書くために読んだものです。

まずは本に触れる機会を増やしましょう。きっと、新しい発見や出会いがありますよ。



教員 寄稿



お勧めのマーケティング関連の書籍

経営学部 経営学科 大田 謙一郎

マーケティング論は経営学部では必修科目となっています。これから履修される方は勿論、既に履修された方やそもそも当該科目が必修でない方も本書を手にとってもらえると幸いです。

私がおすすしたい書籍は、阿部誠教授が著された『東大教授が教えるヤバいマーケティング』です。彼は、タイトル通り、20年以上東京大学に在籍し、現在でも学部および大学院にてマーケティングの講義を担当されています。本書では、マーケティングに関する専門用語が紹介されていますが、所謂一般的なマーケティングのテキストで紹介されるような体系的な理論枠組みの説明というよりも、皆さんが日ごろの買い物でおこなっている消費行動の原理を行動経済学に基づいて分かりやすく解説する内容となっています。

本書で紹介している事例を1つ紹介したいと思います。本書のはしがきで述べられている事例ですが、多くの人は、何故マクドナルドでバリューセットを注文してしまうのか、という事です。勿論、消費者は自身の決断によって、最終的にバリューセットを注文したのだらうと推測できます。しかし実のところ、店側は、消費者の行動原理を理解し、魅惑的なマーケティング活動を展開することで、消費者を魅惑しています。その結果として消費者は、時として無駄な買い物をしてしまうケースがあり、バリューセットも同様の例であると彼は指摘しています。では、何故、多くの人はマクドナルドでバリューセットを注文してしまうのでしょうか。その答えが知りたい方は、本書を手にとって内容を確認してみてください。

本書では、他にも様々な心理効果を利用したテクニックが紹介されています。過去に、推薦入試の面接で、本書を読んでマーケティングに興味を持ったため、本学でマーケティングを学びたいと述べた受験生もいました。高校生でも読みやすく、分かりやすい内容となっていますので、是非とも読んでほしい1冊となっています。

「嫉妬」から政治、社会を考える

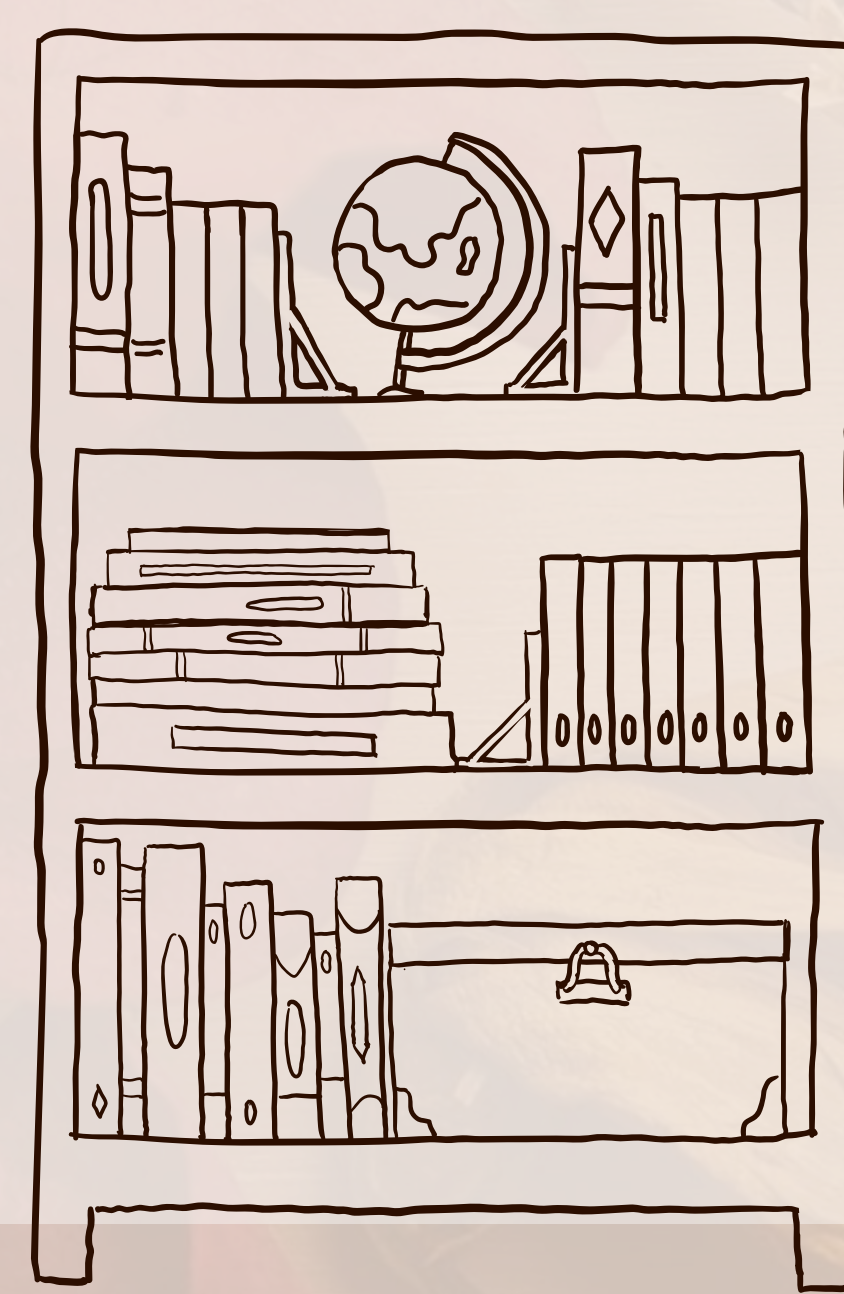
地域創造学部 公共政策学科 石田 聖

大学生活では、友人との成績や人間関係、将来のキャリアにおける競争が嫉妬の感情を引き起こすこともあるかもしれません。私は政治学を専門にしていますが、今回、こうした「嫉妬」を政治思想の視点から社会現象として読み解く一冊、山本圭『嫉妬論 民主社会に渦巻く情念を解剖する』を紹介します。

本書は、単なる個人的な感情にとどまらず、嫉妬がいかに社会や政治に影響を及ぼすかを鋭く分析しています。嫉妬が生まれる背景には、競争や格差、アイデンティティの不安定さなどがあり、特に現代のSNS文化や経済的格差が、嫉妬を助長する要因となっていることも指摘されています。

政治思想的な観点では、民主主義は「平等」を掲げる一方で、著者は、嫉妬を「民主主義の宿痾（しゆくあ）」と表現し、嫉妬が行き過ぎると分断を招き、民主主義を脅かしかねないとも述べています。また本書は、嫉妬を「良性嫉妬」と「悪性嫉妬」の二つに分類しています。前者は優れた人への憧れや向上心を生むものであり、社会にとってポジティブな側面を持ちます。一方、悪性嫉妬は精神的な痛みや敵意を伴い、政治利用と結びつきやすいものです。最近の欧米のレイシズムやポピュリズムの台頭にも、「嫉妬」という感情があると指摘されています。特に社会的に優位な位置にいるはずのマジョリティが、自分より不利な位置にいるマイノリティの成功や待遇の改善を妬む現象は、現代社会における嫉妬の複雑さを物語っています。

一方、嫉妬はネガティブに捉えられがちですが、向上心を生み出したり、不平等をなくそうという民主主義の根幹を支える運動にも寄与し得るものです。嫉妬心、誰もが抱く不可避で厄介な感情ですが、その源や社会構造との関係を見つめることが自己の発見や、現代社会を考えるための豊かな視座を提供してくれるのかもしれません。自身の感情や人間関係、人々の嫉妬心をうまく（政治）利用しようとする現代社会を俯瞰的に見る上でも興味深い一冊です。大学生にとっても、嫉妬心に振り回されがちで「しんどい」と思っている方にこそ、ぜひ一読してほしい本です。



心は身体から派生する

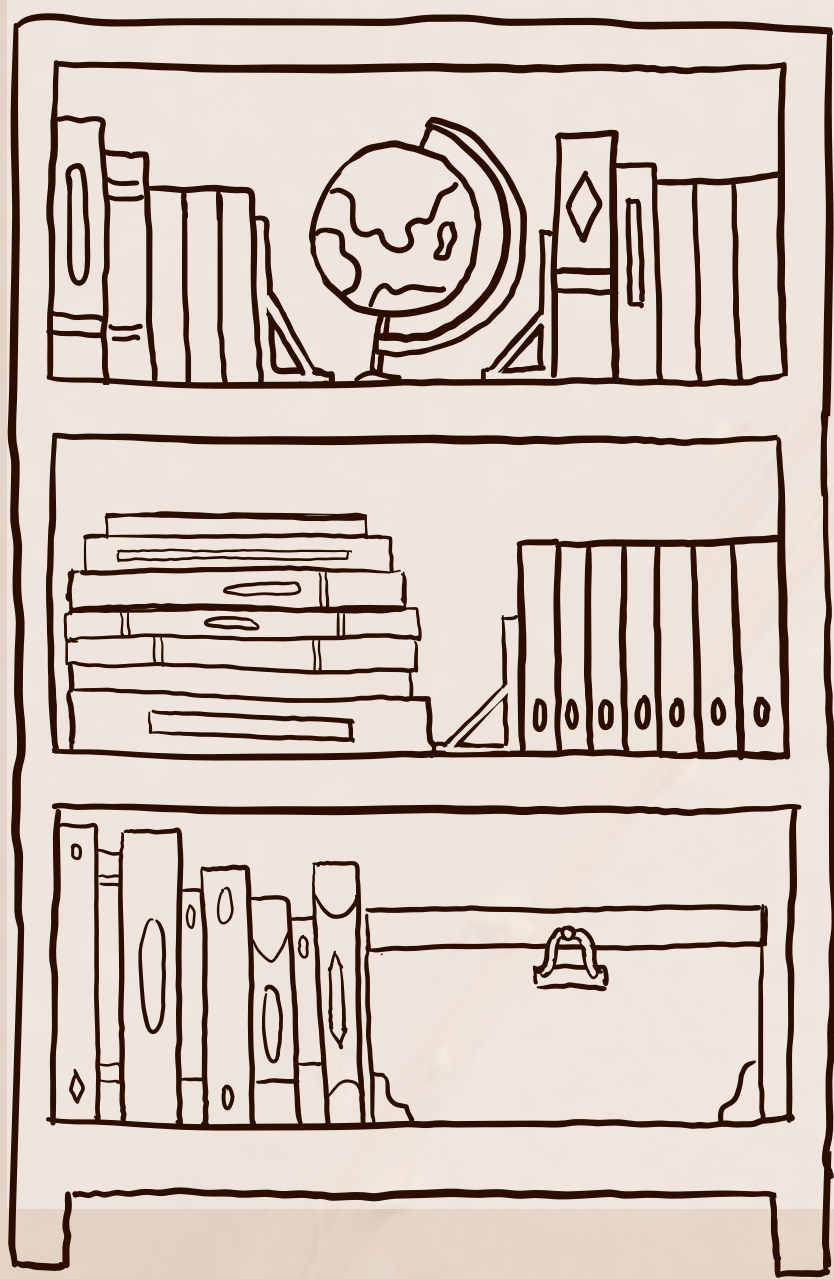
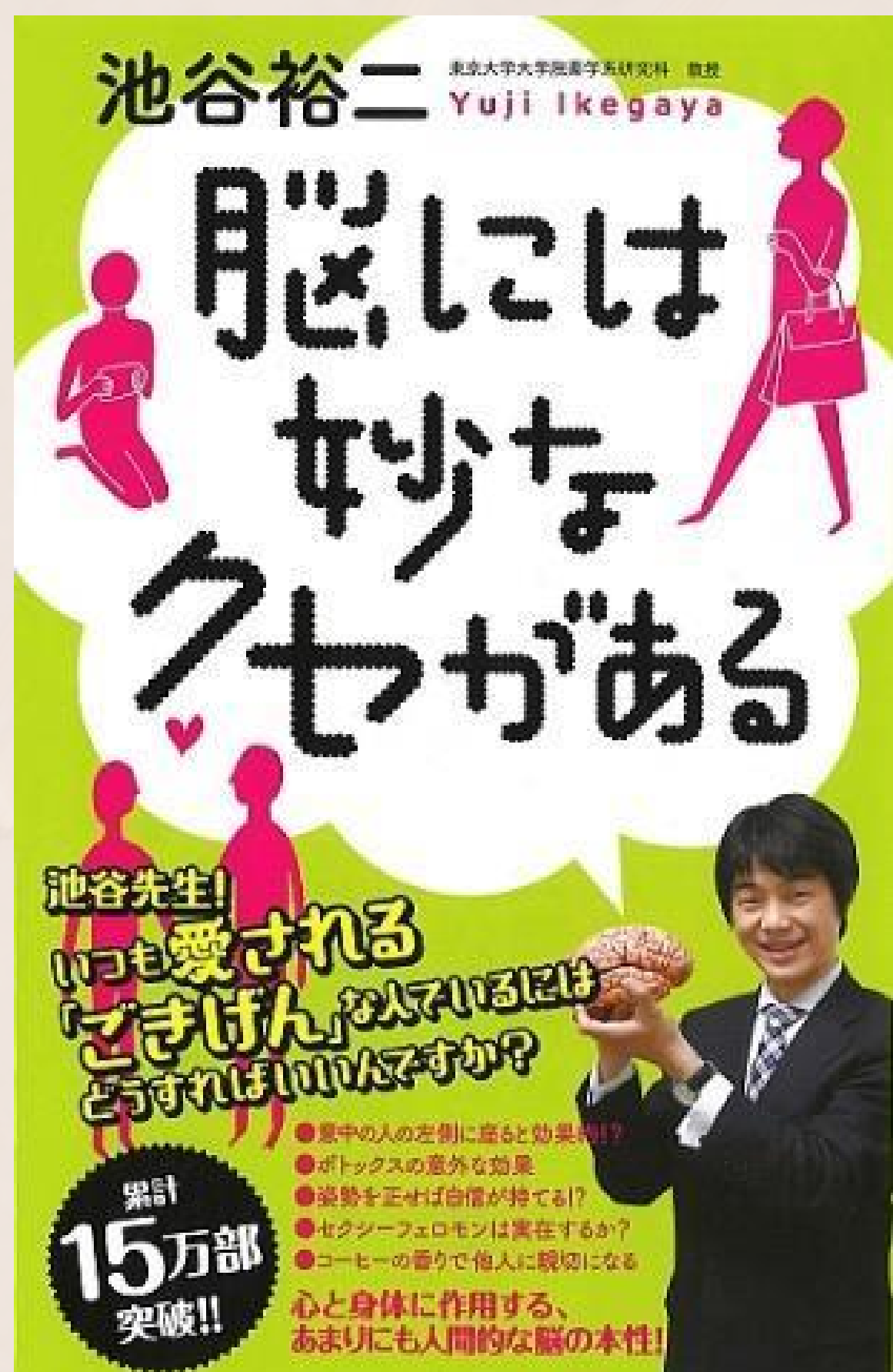
情報システム学部 情報セキュリティ学科 寺田 剛陽

情報漏えい事故が後を絶ちません。ITシステムにおける最も脆弱な部分は人間です。私はセキュリティ対策行動を促す技術を研究しており、そのヒントとして最近読んだ書籍を紹介します。『脳には妙なクセがある』（扶桑社新書）は、脳科学の研究者として大変著名な池谷裕二さんが書かれた本です。テレビの「情報7daysニュースキャスター」に出演されているのを見たことがある方もいると思います。

本書は、脳科学の多くの研究成果を一般人にもわかりやすく紹介し、得られた知見をもとに脳の道理にかなった使い方、ひいてはよりよい生き方を提案してくれています。本書では様々な脳の話がありますが、著者が最も伝えたいメッセージは、人の意思決定は想像以上に習慣や環境、身体状況に影響を受けており、自由な意志というのは幻覚にすぎないということです。

習慣については、携帯電話のデータを使った分析で、どんな不規則な生活パターンの人でも時間帯ごとの居場所を80%以上で予測できることを例に挙げています。環境では、右利きの人に指で物を指してもらった実験で、右脳に対して磁気刺激を与えると左手を多く使うようになること、しかし本人は磁気刺激に気づかず自ら左手を使うことを選んだと信じていたという研究結果を示しています。身体状況では、眠くなくても電気を消して、布団をかぶって横になれば眠気が訪れることを例に挙げています。

自由意志が幻覚にすぎないとする理由は、初期の生物の脳は外界と身体との間の入出力処理に特化しており、後から生まれた大脳新皮質はその処理機能を共用したものであるため、外界の影響を大きく受けていると説明されています。したがって、よりよく生きるには、身体性を意識して脳を使うことが提案されています。すなわち楽しく過ごすために笑顔を意識すること、やる気を出すためにはまずやり始めること、アウトプットを重視した勉強をすること、などです。研究のヒントになっただけでなく、よりよい生き方まで示唆をしてくれる本書はおすすめできる一冊です。



教員 寄稿



非日常の世界に触れる

看護栄養学部 栄養健康学科 世羅 至子

20年ほど前に宮崎県の高千穂の峰の頂上に、天の逆鉾が突き刺さっているというのをTVで観た。天の逆鉾をみたくて、当時小学校低学年であった子供たちと、普通のスニーカーにリュックの出で立ちで、足元を瓦礫に掬われながら高千穂の峰に登った。これが私の登山の始まりである。以降、1年に2~3回、長崎県、九州の山をマイペースで歩いている。

この夏50代最後の記念にと一念発起して富士山に登った。なんとか日本最高点の剣が峰(3,776m)まで行くことができたが、そこには今も富士山測候所の址が残されていた。自宅に戻ってから、10年以上前に読んだ、明治時代に富士山頂で冬季観測を夫婦でおこなったという小説をふと思い出し、本棚を探して見つけたのが、新田次郎著『芙蓉の人』である。登山を始めた頃、山岳歴史小説や山岳ミステリー、山岳エッセイなどをよく手に取っていたが、新田次郎の作品を読むきっかけになったのは、2009年「劔岳・点の記」という映画の公開である。この映画の原作を書いたのが新田次郎であり、その著書の1冊が『芙蓉の人』である。

富士山の急峻さや、天候の急変、夏でも身震いするほどの寒さ、平地では感じない強い息切れなど身をもって体験したあとでもう一度読み返すと、明治時代の冬季富士登山、山頂での滞在がどれほど過酷であったかと今更ながら考えさせられた。またその少し前まで女人禁制であった富士山に、夫を支えるために後を追って入山した妻、千代子の強さ（これがノンフィクションであることも驚きである）に脱帽の思いである。私といえば、雨の中の登山開始とはいえ、5合目からの出発で、現代のフル装備をまとい、山小屋でご飯と布団が待っている状態であるにもかかわらず、ようやく山頂にたどり着いたときはヨロヨロしていた次第である。文明の利器に慣れてしまった多くの現代人にとって、先人の強さは計り知れないと今さらながら感じた。他の著書も再読してみたいと思う。

佐世保校 × シーボルト校

インフォメーション

図書館利用状況

1 入館者数（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
佐世保校	4,371	4,899	4,597	4,278	1,687	621
シーボルト校	5,074	4,912	5,127	5,325	1,735	1,735

2 貸出冊数（冊）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
佐世保校	863	827	891	994	712	338
シーボルト校	2,113	1,190	1,345	1,354	920	921

※学生、教職員、外部利用者の合算値です。

3 貸出資料ランキング（2024.4.1～9.30）

順位	佐世保校	シーボルト校
1	あなたのTシャツはどこから来たのか？ 誰も書かなかったグルーバリゼーションの真実 /ピエトラ・リボリ著	TOEIC L&Rテスト 文法問題でる1000問 / TEX加藤著
2	シームレス物流が切り開く東アジア新時代 九州・山口の新成長戦略 / 藤原利久ほか著	公式TOEIC Listening & Reading 問題集 / ETS著
3 (2)	自動車の社会的費用 / 宇沢弘文著	生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 / 山田律子、内ヶ島伸也編集
4 (2)	物流を学ぶ：基礎から実務まで / 山本裕、男澤智治編著	変な家2～11の間取り図～ / 雨穴著
5	小倉昌男経営学 / 小倉昌男著	公式TOEIC Listening & Reading 800+ / ETS著

※（ ）は、佐世保校の同じ貸出回数による順位です。



佐世保校附属図書館の紹介

佐世保校附属図書館は、1970年4月長崎県立国際経済大学附属図書館として開館しました。1996年9月には、大学の教育研究の充実や県民の生涯学習、地域の学習・文化の振興と、国際交流の促進に貢献する目的で、長崎県立大学図書情報センターとして新設オープンしました。2008年4月に長崎県立大学が開学した際に改称して、今日に至っています。

鉄筋コンクリート4階建てで、1階には学術的・文化的イベント等に利用できる多目的ホール、学生が自学・グループ学習の場として気軽に利用できるラーニング commons が設置されています。2階から4階の閲覧室には図書検索システムを導入して、外部の図書館との連携を図るなど学内研究体制の強化だけでなく、地域に開かれた学習・文化の拠点としての役割を果たしています。

2023年度末時点の資料構成は以下のとおりです。

図書	288,576冊 (うち洋書 77,946冊)
学術雑誌	880種 (うち外国誌 475種)
視聴覚資料	7,198点
電子ブック	151タイトル
電子ジャーナル	29タイトル
データベース	10タイトル



図書館アルバイト学生からのメッセージ

「Library like a mirror」

経営学科4年 亀岡 俊介

図書館というものは、利用者のあなた自身が望む形が変わっていく存在だと思っています。本を読みたい・借りたい人にとっては、多くの本を抱える書庫として。勉強や仕事をしたい人にとっては、静かなワークスペースとして。とにかく暇をつぶしたい人にとっては、何をすることもあなたを受容してくれる居場所として。いふなれば、図書館は鏡のような存在なのです。あなた自身はどうなりたいのか、どうしたいのか。はたまた、道に迷っている途中なのか。それを映してくれる「鏡」なのです。あなたが図書館を訪れた時、図書館は必ずあなたに答えてくれるでしょう。

佐世保校附属図書館は、利用者の方が満足できる設備が充実しています。学部学科に合わせた本や、文芸本といった蔵書の豊富さは勿論のこと、常に静かなので集中できる環境になっており、とても魅力的です。

気軽な気持ちでいいです。ぜひ、お近くの図書館に足を運んでみてください。

エレベーターが新しくなりました！

8月中旬から9月中旬までエレベーター工事で、利用者の皆さんにご迷惑をおかけしていましたが、無事に工事が終了し、新しいエレベーターになりました。

今年度内に、1階に退館ゲートを新設した後、常時稼働させる予定です。それまでは、利用希望の場合、1階エレベーター手前右壁のインターホンを押してください。



中学生職場体験

7月に相浦中、9月に中里中・日野中の生徒さんが、職場体験に来てくれました。各中学校とも3日間の日程でしたが、仲間と協力したり、助け合ったりしながら仕事をする大切さを実感してくれたようです。

蔵書整理作業やカウンター業務体験等に加えて、課題として作成してもらったおすすめ本POPを2階ベストセラーコーナーに展示中ですので、是非ご覧ください。



「おすすめのエリア」

経営学科4年 松田 ななか

私はこれまでアルバイト生として、そして一利用者として佐世保校図書館で多くの時間を過ごしてきました。そんな私が利用者の皆さんにおすすめしたいエリアは、2階出入口ゲート前のコーナーです。

毎月更新される新刊コーナーには注目の受賞作品、新着図書の展示など、書店のような雰囲気を感じることができます。読書が好きな人もそうでない人も、表紙を眺めるだけで楽しめるような空間になっているため、フラッと立ち寄るだけで気になる本に出会えるかもしれません。

佐世保校附属図書館では、大学図書館として学術書が多く蔵書されていることに加え、話題の小説や流行に沿った本の閲覧も可能です。幅広い蔵書の中から、ぜひ興味のあるものを探してみてください。また、自習スペースも多く設置されているので、勉強目的のご利用にも最適です。

それぞれの目的に応じて、図書館を身近なものに感じてもらえると思います。



選書ツアーの実施

9月27日（金）13:30～16:30 メトロ書店で学生選書ツアーが開催され、学生5名が参加し、それぞれの思いを含めて本を選んでいました。参加者からは次の感想が寄せられました。

- 本をたくさん選んで買うという経験は初めてで楽しかった。いつもなら金銭的な事情で手にとらないような本を選べたことも良い経験になった。この体験から、今まで以上に本を読みたいと思えた。
- 一人あたりが使える金額がけっこう大きくて良かった。今まであまり興味がなかったジャンルの本にも手を出してみる良いきっかけになった。また機会があればぜひ参加したい！
- 実際に本を手に取りながら、気になる本をじっくり選択できたので、楽しかったです。また機会があれば、ぜひ参加したいと思います。
- 一度にたくさん自分の興味のある本や面白そうな本を買う機会はほとんどないので、楽しかったです。また、前回よりもじっくりまわられたので良かったです。また機会があれば、次はジャンルが偏らないようにしたいと思います。
- 普段は金額を気にしながら購入するので、気にしないで購入できるのは嬉しかったです。

シーボルト校附属図書館の紹介

シーボルト校附属図書館は、1999年4月長崎県立シーボルト大学開学と同時に開館し、2008年4月に長崎県立大学が開学した際に、シーボルト校附属図書館と改称して今日に至っています。

この間、大学における研究・学習に関する資料を収集し続け、併せて県民にも広く開放し、県民の学びの場としても活用されています。

図書館はシーボルト校のほぼ中心に位置し、建物は鉄筋コンクリート3階建て、博物館のような重厚な造りで、太陽光を採り入れた明るい閲覧室（1・2階）、プライベートを重視した個人閲覧室（2階7室）、グループ学習のためのグループ閲覧室（2階2室）、AVコーナー、PCコーナー、飲食可能なラウンジ（1階）など多様な利用形態に対応できる施設構成となっています。

2023年度末時点の資料構成は以下のとおりです。

図書	223,203冊（うち洋書 41,207冊）
学術雑誌	213種（うち外国誌 18種）
視聴覚資料	8,345点
電子ブック	1,227タイトル（うち外国語297タイトル）
電子ジャーナル	22タイトル（うち外国語 16タイトル）
データベース	8タイトル





創刊号の発行に寄せて

シーボルト校附属図書館 館長 大曲 勝久

このたび、長崎県立大学附属図書館だよりの創刊号を発行するはこびとなりました。創刊号といっても、これまで佐世保校では定期的に発行されており、今年の春（4月：第41号）からは西岡誠治附属図書館長のご尽力により紙版を廃止して電子版に一本化されました。11月号からはシーボルト校からの情報も加えさせていただけることになり、そういう意味で「創刊号」となったわけです。電子ブックとして全ての学生・教職員に配信され、両校の図書館のホームページにも掲載されます。西岡誠治先生のご配慮に深く感謝いたします。創刊号では、学長をはじめとして両校の教員からの寄稿、図書館情報などが掲載されています。時間のある時に、是非ご覧ください。

大学の図書館は、大学における学生の学習や、大学が行う高等教育および学術研究活動全般を支える重要な学術情報基盤の役割を有しており、大学の教育研究にとって不可欠な中核を成す総合的な機能を担う機関の1つです（平成22年：科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会の資料より）。学生の皆さんにとっては、単に本を読む・借りる、授業で課された課題に取り組む際に必要な資料を探すだけでなく、視聴覚資料を活用したり、新聞や雑誌から情報を得たり、グループ学習の場に活用したり、ときには空いた時間を過ごしたり、暑さや寒さをしのぐ場にも活用できます。また、本学の図書館に置いてない資料を他所から取り寄せることもできます。分からないことがあれば遠慮なく図書館のスタッフにご相談ください。

この「図書館だより」は、今後も年に2回発行する予定です。昨年より本学の学生の方にデザインやイラストを担当していただいています。今後は、学生の皆さんや職員のみなさんも、本に関する寄稿や情報提供を含めた内容を発信できるような媒体に発展していくことを願っています。

図書館だよりの新展開

佐世保校附属図書館 館長 西岡 誠治

2003年10月に創刊された「図書情報センターだより」は、図書話題を中心にしつつも大学情報を幅広く扱っていました。それが2009年8月の第12号で「図書館だより」と名称変更され、近年は教員による書籍紹介に限定された内容になっていました。

2023年5月の第39号からは、お絵かきサークルの学生に協力を求めてデザインに力を入れるとともに、デジタル化や図書館情報の充実などに努めて参りました。それが今般、新たなステージを迎えることになりました。浅田学長のお声かけと大曲館長のご英断で、シーボルト校附属図書館との統合を果たすことができましたのです。佐世保での発刊から数えると第42号になりますが、統合を新たな出発点と考え「創刊号」と銘打ちました。

表紙絵は二人の学生が活動を始める様子を村井さんが描いてくれました。お寄せ頂いた原稿も内容豊富で、図書館だよりの新たな出発点にふさわしいものができたように思います。皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

デザイナーからひとこと

公共政策学科4年 村井 雅

昨年より図書館だよりのデザインを担当しております、公共政策学科の村井です。お絵かきサークルの古賀香雪先輩から編集を引き継ぎ、今回が私にとって最後の参加となりました。

今回図書館だよりを編集するにあたり、テーマとしたのは「共創」です。初めての統合版となる今号を表現するにあたり、大学のカラーや写真を多く使用しました。

佐世保校、シーボルト校それぞれの図書館がより多くの人々に愛される存在となることを願っています。

佐世保校附属図書館

〒858-8580 佐世保市川下町123
TEL 0956-47-2191（代表）
<https://sun.ac.jp/center/lib/saebo/>

開館時間

平日：午前8時30分～午後10時まで（学生の休業期間中は午前9時～午後5時まで）
土曜日：午前9時～午後5時まで
休館日：日曜日・祝日・大学閉校日など

シーボルト校附属図書館

〒851-2195 西彼杵郡長与町まなび野1-1-1
TEL 095-813-5500（代表）
<https://sun.ac.jp/center/lib/siebold/>

